

江戸時代には天下祭と謳われた神田祭で 人気が高かった付け祭を毎回新たに復活

付け祭とは

江戸時代、神田祭で最も人気があり賑やかな行列だった付け祭（附祭）。

付け祭とは、江戸時代に流行した文化芸能一能、浄瑠璃歌舞伎、舞踊、音曲、草双紙や伝説などを多様に採り入れた踊屋台や曳き物、仮装行列からなり、各氏子町で競い合って毎回テーマを変え人々を楽しませた行列である。復元された「大江山凱陣」や「大鯨と要石」をはじめ桃太郎や金太郎といった昔話を題材とした「物語」の行列が延々と繰り返された。何でもありで「一番人気」の出し物であった。

現代の神田祭でも、平成に入り様々な付け祭を出し話題を呼んでいる。東京藝術大学の学生による曳き物やサンバチーム、南相馬市・相馬野馬追騎馬武者、文化資源学会による復元プロジェクトによる行列、ケロロ軍曹など多くの付け祭が出され、付け祭といえば神田祭というくらい今や定着している。

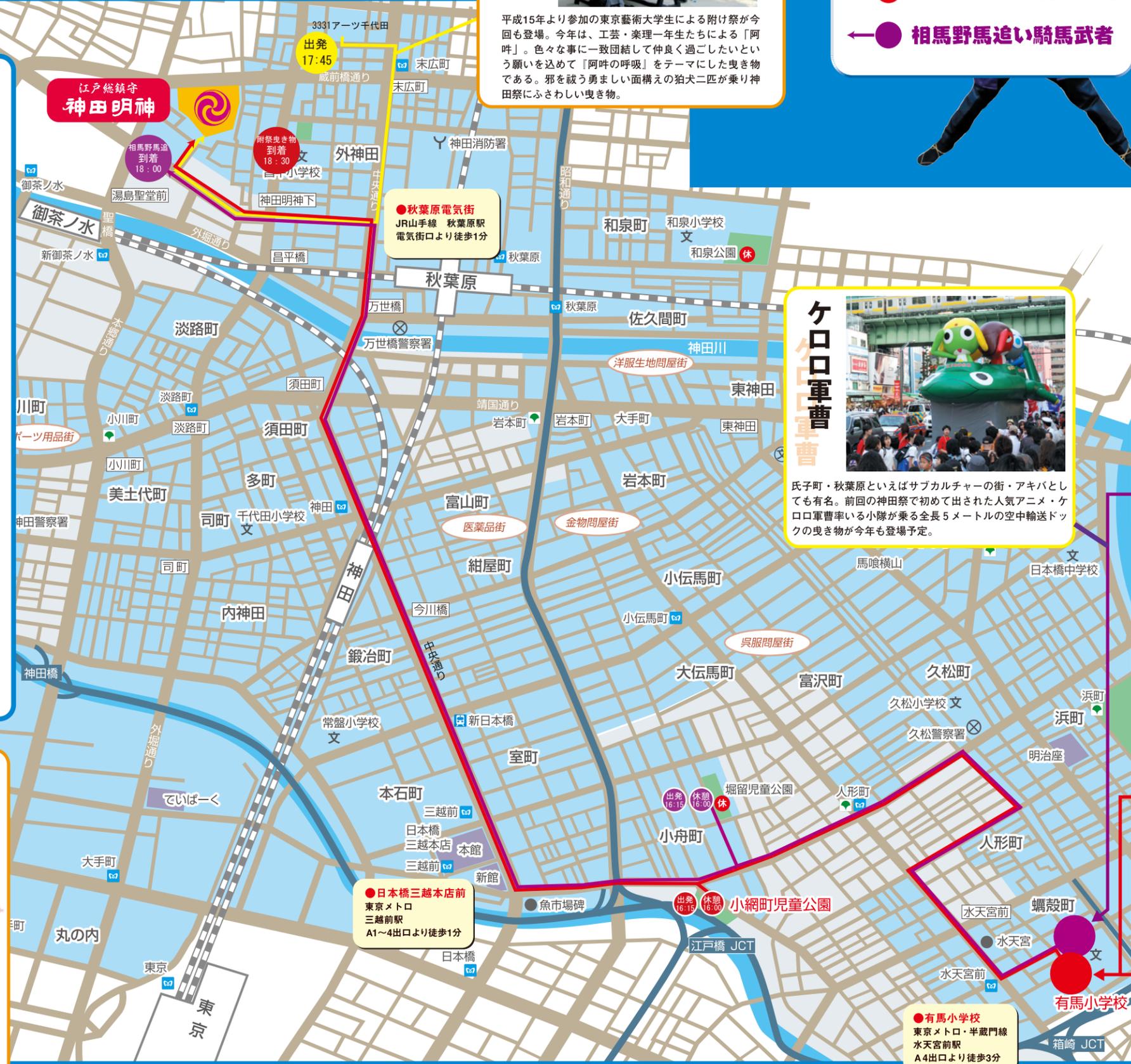
平成2年に相馬野馬追騎馬武者行列、4年に茨城県水府村・町田町火消行列、6年に茨城県坂東市・将門武者行列とクライスデルワゴンパレード、8年に静岡県大須賀町三熊野神社・一本柱万度型山車、13年に巨大な赤ちゃん「ひいろ」の曳き物、15年より東京藝術大学生制作の曳き物、17年に大鯨と要石のバルーン曳き物、三越のバルーン「飛躍」曳き物、NTTコミュニケーションズ(株)・OCNオリジナルキャラクター「ジョリー」曳き物、19年に大江山凱陣曳き物・練物、21年にアニメキャラクター「ケロロ軍曹」曳き物など、次々と付け祭が出されて注目された。

ちなみに御雇祭は、江戸幕府の経費負担により祝福芸・太神楽や放下芸・こま廻しの諸芸や、御台所・大奥の所望により出された仮装行列など、こちらも賑やかに行われた。かつての御雇祭・太神楽は今年も行列に加わる。

新付け祭は 花咲かじいさん!

今回新たに登場する付け祭・花咲かじいさんの曳き物と練物は「ここ掘れワンワン」の台詞で有名な昔話の一つ。心優しい老夫婦と性根の曲がった隣人夫婦が、不思議な力を持った犬をきっかけに前者は幸福に、後者は不幸になるというストーリー。

この付け祭は、江戸時代の神田祭の絵巻物に描かれていた行列を復元したもの。文化資源学会をはじめ多くの方々が参加される予定。



阿咩

平成15年より参加の東京藝術大学生による付け祭が今回も登場。今年は、工芸・染理一年生たちによる「阿咩」。色々な事に一致団結して仲良く過ごしたいという願いを込めて「阿咩の呼吸」をテーマにした曳き物である。邪を祓う勇ましい面構えの狛犬二匹が乗り神田祭にふさわしい曳き物。

神幸祭 附け祭 ガイド

五月十一日(土)

- 江戸芸 かつぼれ
- 大江山凱陣 大鯨と要石
- 相馬野馬追い 騎馬武者

ケロロ軍曹

氏子町・秋葉原といえばサブカルチャーの街・アキバとしても有名。前回の神田祭で初めて出された人気アニメ・ケロロ軍曹率いる小隊が乗る全長5メートルの空中輸送ドックの曳き物が今年も登場予定。

相馬野馬追 騎馬武者

国指定重要無形民俗文化財。神田明神のご祭神・平将門公が領内の下総国相馬郡小金原に野生馬を放し、敵兵に見立てて行なった軍事訓練「野馬追い」に始まり、今も将門公のご子孫・相馬氏により伝えられ、毎年7月下旬に福島県南相馬市で相馬野馬追が行なわれている。この将門公の神事にちなみ騎馬武者行列が付け祭に加わる。今回も南相馬市より10騎が特別参加、その勇姿を披露する。

大江山凱陣

平成19年に約170年ぶりにバルーン技術を駆使して復元された大江山凱陣。この付け祭は「酒呑童子(しゅてんどうじ)」をモデルにした行列。「酒呑童子」は天皇の命を受けた源頼光や坂田金時ら四天王が大江山の日本三大悪妖怪・酒呑童子ら鬼を退治する物語で、江戸時代に歌舞伎や浄瑠璃で演じられ、浮世絵にも多く描かれ非常に人気があった。江戸時代の代表的な資料「江戸名所図会」やスイス使節団の記録などに描かれるほど注目された。

大鯨と要石

平成17年に約215年ぶりに復活した大鯨と要石。江戸後期の神田祭を描いた『神田明神祭礼図巻』に際目立つ付け祭として描かれている。江戸三大踊りの一つ「鹿島踊(かしまおどり)」をテーマにして作られた付け祭で、茨城県・鹿島神宮境内に祀られる地震の象徴・大鯨の頭を押さえつける「要石(かなめいし)」を乗せる。要石は現在も鹿島神宮の境内に祀られている。

